



2015.6.11

No.52

# 芦屋「九条の会」ニュース

発行責任者：片岡 隆  
連絡先 090-7118-2312

## 芦屋「九条の会」10周年のつどい開催

# 護憲か改憲か、熱い論戦

芦屋「九条の会」は、10周年記念のつどいを芦屋ルナ・ホールで5月16日に開催し450人を超える参加者で会場は一杯になりました。関西学院高等部グリークラブ出身者による男声合唱で幕が開きました。素晴らしい歌声、特に「我が窮状」は圧巻でした。漫画家まつだたえこさんによる「まるで転がる石のようにライク・ア・ローリング・ストーン」のオリジナル紙芝居では、憲法の大切さを再認識しました。

続いて、「激論！『憲法9条』～あなたは平和についてどう考えますか～」と題して、9条を生かした国際貢献を提唱する柳沢協二・元内閣官房副長官補と、集团的自衛権の行使容認に賛成する川上高司・拓殖大学教授に対談をしていただきました。ジャーナリスト・松竹伸幸さんに司会をお願いしました。

5月14日に閣議決定された新安保法制について、川上教授は「内容が多すぎる、なぜ新安保法制整備か、自衛隊員の犠牲の可能性、日本がどこに向かおうとしているのか説明がないなど、やるべきだが不備が多い」と指摘。「今回の法案はアメリカの戦略に利用されるリスクが高い。憲法空洞化を防ぎ、権力にたがをはめるためにも改憲が必要」。また「集团的自衛権は権利であって義務ではない。断れる、断れば良い」と訴えられました。



柳澤さんは、「自衛隊が普通の軍隊になってしまい、憲法破壊である」。また、中東での対テロ戦争を例に挙げ「安倍首相は参戦しないと言うが法案上はできる仕組みだ。アメリカが『要請を断れば同盟を白紙にする』と迫れば日本は断れない」「抑止力とは報復の威嚇で、犠牲を覚悟の恐ろしい概念である。アメリカにべったり従属している。今こそ専守防衛が重要。日本は、70年間戦争に巻き込まれなかった。それを安倍首相は変えようとしている」と憂慮されました。

松竹さんは、「改憲派、護憲派が自分の意見を一方的に述べる時代は終わった。双方が歩み寄り、日本の進むべき道を議論しよう」と呼び掛けられました。

つどい終了後、JR芦屋駅までピースウォークをしました。「9条は世界の宝」